令和５年度　１０月号

十二月田小だより

川口市立十二月田小学校
川口市朝日１－１１－１
TEL (048)222-4383
FAX (048)222-9388

学校教育目標　　進んで学ぶ子　仲良くできる子　たくましい子
児童数　男子４７３名　女子４３９名　計９１２名

しっかりと聞き・わくわく未来を語り・すすんで学び・だれにも仲良くできる　しわすだっ子

レジリエンスを高める（その１）

校長　富山　益光

９月３０日（土）の第７２回運動会では、たいへんお世話になりました。全児童が一堂に会しての実施は、実に４年ぶりとなり、大勢の保護者、地域の皆様に本校児童の真剣な眼差しで競技や演技に取り組む姿をご覧いただけたことをうれしく思います。９月は、記録的な暑さに加え、これまで経験のないこの時季のインフルエンザの蔓延により、学級閉鎖のみならず２学年で学年閉鎖の対応を取る中で、練習を進めてまいりました。しかし、そこは本校の児童の力の見せどころで、そのような逆境をもろともせずに、当日は、実に見事に行うことができました。改めて、保護者の皆様には、体育着や水筒のご準備等、感謝申し上げますとともに、児童の頑張りを、ご家庭でも改めて称賛していただけますと幸いに存じます。

また、９月１９日（火）からの４日間、オーストラリア・クイーンズランド州にあるウエーラーズ・ヒル　ステート　スクールの児童１１名と、校長先生、教頭先生、先生２名が本校を訪れ、４日間を過ごしました。２年前から６年生が外国語の学習の中でオンラインにて交流を行い、お互いの学校や家庭での生活の様子等を交流してきました。今春に、本校に直接来て、交流をしたいという申し出があり、実現いたしました。６年生が残念ながら学年閉鎖になり、急遽５年生が交流することになりましたが、６年生はこれからもオンライン上ですが、交流は続きます。双方にとって、とてもよい交流ができました。「来年度も、本校に来たい」とのことでしたので、本校の毎年の伝統行事になればと心から期待をしています。

さて、夏休み中にいくつかの研修を受講し、その中で、「レジリエンス」という話を聞き、児童にとって必要不可欠な力と感じました。とても興味がわき、本やインターネットを使って調べてみましたので、今月と来月の学校だよりでご紹介いたします。

「レジリエンス」とは、もともと物理学の分野で使われていた言葉で、「物質や物体に対して外から力が加えられたときに、もとの形に戻ることのできる力」を指していました。例えば、ゴムボールを強く握っても、手を離すともとの形に戻ります。それが、近年では心理学でも使われる言葉となり、「強いストレスや困難な状況に押しつぶされそうなときでも、それを跳ね返し、素早く立ち直る力」のような意味合いで使われています。

この概念が注目され始めたのは、1970 年代で、第二次世界大戦時収容所で過酷な経験をした孤児たちが、同じ経験をしたにも関わらず、トラウマを乗り越え前向きに取り組み幸福になった人もいれば、過去のトラウマや不安にさいなまれ、気力を持てない人もいました。同じ経験をしながら、その後の人生が大きく異なります。また、何か困難な取り組みに直面すると、すぐに諦めてしまう人もいれば、粘り強く取り組める人もいます。それらの違いには、共通点があるそうです。１つめは、思考の柔軟性です。厳しい状況であってもネガティブな面だけではなくポジティブな面を見出すことができることが大切で、他にも重要な要素があることがわかりました。次回、学校だより１１月号にてさらにお伝えいたします。

１）参考資料　NHK クローズアップ現代（2014 年 4 月 17 日(木)放送）
２）【激動の時代を生き抜く】レジリエンスとは？逆境に強い…https://the-lead-biz.com/resilience/